

1. はじめに

現在行われているプレゼンには様々な問題がある。発表者は発表中に参加者から直接アクションを得られず不安を覚えることがあるし、参加者は前方のスクリーンを見ては手元でメモを取ってと忙しく発表そのものに集中できず、場の雰囲気によっては質問もしづらい。公式な場でのプレゼンはアーカイブとして残るものだが、その内容を論文などで引用するには難しいところがあるし、何より現地に行った人と比べるとライブ感に欠ける。

そこで私たちはそういった諸問題を解決しエンジニアに“Live”なプレゼンを届けるサービス『Mothman』を開発した。

2. Mothman の使い方

2.1. プレゼンをする

プレゼン資料が Mothman、もしくは Google Drive などのクラウド上にアップロードされておりマイクとカメラさえあればこの PC からでもプレゼンを行える。スライドだけでなく音声や動画も含めた全てを Mothman が配信するため、わざわざ複数のサービスを併用して煩わしい思いをすることはない。自分の顔をデータとして残したくないという人のために発表者を 3D アバターに置き換えた仮想空間上の映像を配信することもできる。

配信中にユーザからのコメントや質問を受け取ることができ、インタラクティブなやりとりが可能となる。



図 1 発表中の操作画面

2.2. プレゼンを見る

参加者はもう視線をスライドとメモの間で往復させる必要は無い。一つの画面でスライドを見て、メモを書いて、コメントや質問を投げかければいい。

書いたメモを後から編集し、記事として Mothman 上のプレゼンと紐づけて保存できる。自分のためのメモだけでなく後進のための資料にもなる。



図 2 参加者の操作画面

2.3. プレゼンを利用する

優れたプレゼンは重要な技術資料であり様々な利用価値がある。Mothman はプレゼンをアーカイブとして残し後から学習目的や、論文引用のために見られるようにする。プレゼンの参加者が書いた記事をプレゼンに紐づけることで内容についての解説や意見を簡単に閲覧できるようにしたり、プレゼンにコンテンツ ID を割り振り、論文引用を簡単にしたりとプレゼンの利用を手助けする機能も提供する。

また、アーカイブからの視聴でもコメントや質問の投稿、閲覧をリアルタイムで視聴したユーザと同様に行うことができるのでイベントに直接参加できなくてもたくさんの人と同時に見ているかのようなライブ感を味わうことができる。